

生甲斐も一萬一と仰り及ておる五老を母といふ
右様も若くは所詮討取御願と法免りて出府下候に
由りて江戸表へ候振も中越り右一左右にお待旨
候御座り申

一 江戸の隆動場 日者有常列の出給なる菊澤近衛殿に
不品川殿の宿候長と申せし所へ二夜中明りて度
涉府内へ尚更止宿下候而申しに別と急速奉動
いたし申

○水戸一件始りハ先達向水戸家下りハ 勅遣

公義上四取戻之義有宗左白井殿初二月上旬水戸表
より下りし所候長渡さばに在室妻女一日以江戸下取
りし由右 勅遣一件有先達向の押込申候居り表
右筆改元言橋太郎殿奉初令子孫二帝徳目付位
谷綿之助初之都合六拾人江戸より三里長恩近出張
いたし往來留隆動い多しに有付に〇〇〇〇大橋向
い由右隆動い多しに者共は結し御用状到來いた
しし水戸表も存しと申候申候届いたしに〇〇付
討取向いし面〇〇〇〇家先島居激々奉取と〇〇

蘭手吾物以先手相願目付役持以取身以右五組之者
百之長思進討手向以取裁し以和後目付國友忠之師
裁又人と相争よいつしそく下城下打込是人主決地
ニ而打殺り取獲り三人ハ逃去由此者ハ働ニ而島居候ニ
湯と色と赤し進出の由有る者人ニ討取不中詰り逃
去り由右様勅ニ金俵仕送り候令主も水戸に様多と白
領出之傳と申者あり

有る如く二月廿一日江戸表より海進あり候事ハ廿七日
に海進あり候事あり
勅渡り候事ハ戸家ニ申す候事ハ下倫候事

灰倉交り能柳と揚形取し候事取りし候ハ海進事
不取候若浪系取りし候事取りし候ハ海進事
取りし候事取りし候事取りし候事取りし候事
取在（取在）取在（取在）取在（取在）取在（取在）取在（取在）

先達高隈居側用人久木直次郎と申者芝城ハ行候
居下目元取り道と若と若し候侍人出武陸実ハ
由宅下取り候事あり
江戸御家ニ由浪籍者入候事も早柳子木と申者候事
火事候事取ら申候事あり

○百村治左馬 上若薩州西家身之由身初〜せり知は方
に家身〜せり由身遠後身過番上医師と所在捧突
八人附重の中初〜せり死〜不為人切符ノ或人四日夜付
西町穿如如古事〜陸清下成

○三月三日早朝豊后山六人連ら何の程段〜もあ〜し振
子〜町人物〜若事人交り豊山いた〜り得余り早朝
在事足生〜不出樹〜豊朝又世と知〜子〜人排
相体解是〜氣分多〜付〜中〜渡寺途河〜成

後〜町人物〜若事〜是〜酒者潤系下
安〜兩人〜若事〜湯屋〜常失念い〜りり武
筋潤兵〜振と振合三来あ後西〜久保山〜道あり
其場亦〜若事〜在事初〜事〜延引いた〜
付到〜る〜進茂間〜合不〜付不伴合先〜出り宿
里い〜此名前書〜し〜と〜金立出り宿右〜井伊
柳一系〜り合〜若〜り〜幕屋〜り届出り宿米屋居
次宿学〜り世

○三月九日米屋吾次郎娘氷中出羽書初〜奥下奉〜り〜生

主り至用向々々台々山角々々々々出有々々々子至
以如左々々因沙汰有々々

婦人々々第一非常々々々々人々々々
お涙々々心々々々々々々々沙汰々々右月々
園々々

○八代別河春日別辻番藏因々部々補持場原々創居々武
人々因四々三二口男懐中々
阿先何心涙潑々取義成仁在此間拈表柱
次于哉

後旅規依旧家山
一草中各々内々水府製々

通寶
水口府

表々
三軍通寶々有々一四々三々流々場々後へり不中々由

○日別辻番藏因々部々補持場武人々々因不上全信馬所々

○八代別河春日別辻番藏因々部々補持場原々創居々武
お果々侍武人々々々

水口府
古中常流幣

小嶋半助

○酒井雅樂改心行海地力表行書自毅方果居侍見子

池田目付

中島源九郎

池田治平

○衣口傳子及總合辻書也了場内側居内侍神分並發

見分

薩列元名其長所

有村治右馬

元根南本

加田九郎右

相平治理者史前名居係故

服田仁之侍

左に控ぬ之令

右治右馬の所持

一 徳子 辛洞蘭令子四兩老考或東祖百支残産者牧

一 平籠 大書 一 葉サ 一 守 少

一 日記帳三冊 一 珠帘 少

めは津津津津年致不金荷

一 髪こ毛包 少 一 羊具足 一 小舟棧

一 先觸

右も然至用明出之玉條上子所下りい舟宿一人馬居備
且高子加金序以候希廣少於中執り以上

薩列

出川の大津止川橋止宿

岡本場

役人中

髪と毛包中とは歌

君のうため方成を〜は〜ま〜し〜る〜男は
名代あげ通る時〜は〜ぞ〜ま〜

ひ〜ひ〜ひ〜

右〜る〜

一 汚宅

刀長 貳尺六寸

一 服長

五尺五寸余

一 瓶

以上後口は切紙を長守に納せしむるに
此の瓶は

○酒井雅密改度

遠後但馬守改

多々尾村
中島河原
池田河原
永井河原
小堀河原
後村河原

石川河原
水本河原
加後河原
平馬河原
和田河原
堀河原

織田多々尾村

細川越中守改

吉本河原
小島河原
小坂河原
田中河原

山田河原
石川河原
後村河原
小坂河原

加後又三帝

井伊掃部政隆

言橋良之助

勝部龍太郎

永井福左衛門

田中源右衛門

志保谷仁平治

長田徳右衛門

右ノ通見分ニ付テ上

前中納言極少輔申正月晦日於江道館山家申ニ見
江守月凡人數七百八人祿麻上下並用五拾八位宛出席大
以若助教石河幹次郎清上ニ一回お禮

我等事一昨年深々怪某國政向ニ携リ不
以しを勿論世上ニ事耳ト不入ト云此度

勅書返納シ在侍奏方諸司代也
何止有之

順大光より中少有之尚又速返上ニ致旨申渡有

之申安後對馬守磯川ニ中納言并家左左進宛

仕此の書付ニ就
仰上ニ速ニ返上不

遊下
御遠勅お來り不
此速返上ニ就